

平成 29 年 5 月 21 日(日)

(第 42 号)

ワンネット通信

NPO ワンストップリーガルネット

発 信 者 理事長 大内田 治男

E-mail ouchidaoffice@kce.biglobe.ne.jp

電 話 0942-39-0926 FAX 0942-31-5336

「輸出を目指して」

ワンネット賛助会員 島 信 英
(株式会社シマブン)

2015年5月に中小企業基盤機構のサポートFS事業審査に通過し、11月に調査のためシンガポールを訪問しました。運よくサポートいただくアドバイザーが大手企業の初代シンガポール所長の方でした。

目的は、当社製品の輸出。当社が得意とする安全で滑らないグレーチング及び排水溝を現地代理店と契約し、シンガポールを中心としたアジアでのナンバー1シェアを獲得することです。シンガポールはアジアの中心であるため物資、情報が集まりやすく、東南アジアへの輸出に便利で、かつ、暑い地域のため当社商品の使用数が格段に多い都市です。2回目訪問時には、おかげさまで4つ星ホテルのプールに当社商品が決定し、2016年7月に完成、ショールームが誕生しました。今月現地企業と代理店契約です。

また、2016年4月からJETROのお世話になり、新大国コンソーシアムに審査通過し、マレーシアの開拓を行っています。マレーシアは、シンガポールと比較すると人口6倍、面積は圧倒的に大きく、リゾート地も多い国です。そして、何よりも中間層が増えマンションにはプール、住宅にもプールがつく、当社にとって大きな市場です。先月、現地代理店と契約し、来月は5つ星ホテルのプールにショールームとして納入予定です。7月には、クアラルンプールで開催される東南アジア最大の建築系展示会 ARCHIDEX2017に出展します。ここでお客様を確実に捉え、受注拡大を図っていきます。

現在、東南アジアに営業開始し2年が経ちましたが、日本の競争力の弱体化は増すばかりです。とにかくシンガポールのスピードの速さには驚いています。決断力の速さだけでなく、仕事の速さ、朝から夜遅くまでの連絡など、以前の日本人のハードワークにスピード感を足した感じです。そして、教育水準も日本を追い越しました。日本の良い所を学び一人あたりの経済力で日本を完全に追い越しました。

このような新しい刺激を受けると、余計に日本のことが心配になります。日本にいと全くわかりませんが、教育レベルの低下、働く気の低下、仕事レベルの低下は著しいものがあると思われます。やはり、ハングリー精神の低下が招いた結果と言えると思えます。

今後、輸出を成功させ、大いにこの地域のお役に立てるように頑張っていきます。

●「認定 NPO 法人」認定に向けて審査を受ける

ワンネットは 4 月 27 日（木）、認定 NPO 法人の認定を受けるための所轄庁の現地調査がありました。所轄庁は福岡県 NPO・ボランティアセンター。認証を取り扱う 3 人の担当者がワンネット事務所まで出向き、実態確認に当たられました。対応したのは大内田理事長、栗林、古賀信、平野の各理事・監事。1 日がかりのものとなりました。

認定 NPO 法人とは、NPO 法人が「基準を満たしていることを認定される」ことによって、認定 NPO 法人へとステップアップする。つまり、より客観的な基準において高い公益性を持っていることを判定された法人であるということです。従って、認定基準に適合する事業内容と運営を行っているか、欠格事由はないかなど厳しい調査です。具体的には、広く市民の支持を受けているか、活動や組織運営が適正か、多く情報公開が行われているかなど、書類審査と聞き取り調査が行われました。

口頭講評では、いくつかの不備、改善、検討事項を指摘され、今後更なる審査を受けて、可否が示されます。

認定 NPO 法人は 28 年度末現在、全国で 1022 件。51,526 件の NPO 法人のわずかに 2%弱。福岡県には 5 件しかなく、数字から言っても厳しいハードルです。だからこそ、認定 NPO 法人にはより高い「税制優遇」などが適用されるのだと思います。

ワンネットの認定は大いに気になる場所ですが、活動に当たって会員一人ひとりの普段の心構えが必要だと痛感したところです。

(第 2 回調査)

5 月 12 日（金）、福岡県 NPO・ボランティアセンターより第 2 回調査の実施について連絡がありました。日程は 6 月 1 日（木）14 時よりワンネット事務局にて実施。内容は、前回調査での指摘事項について、改善できることはあらかじめ対応しておくよう指示されています。

会員のみなさんにお手を煩わすことがあるかも知れませんが、その節はよろしく願います。
(文責 栗林 武敏)

●外国人問題について

行政書士制度発足 50 周年の記念事業として、久留米近辺に住む外国人を対象に討論会を 2000 年 10 月 29 日に開きました。その時、オーストラリア人から「外国人は住民表に記載されない。」、アルゼンチン人から「年金の二重の保険料納付」、フィリピン人から「市役所の課名表示に英語を」等多くの問題が提起されました。記念事業でしたが、反響が大きく、久留米市、国際交流協会の後援を得て、毎年開催することになりました。

テーマを「国際結婚」、「労働問題」等に特化し、既に 12 回を数えるまでになりました。ま

た、提出された問題の解決に向けたのも多くあります。

行政書士の主催でしたが、事情があり、現在は特定非営利法人ワンストップリーガルネットが引き継いでいます。

このワンネットには、多くの専門家がいますので、外国人が抱く問題解決に対応できるのではないのでしょうか？

アメリカ、イギリス、北朝鮮、フランス等、ナショナリズムが台頭していますが、世界はグローバル化へ向かうべきでしょう。共生していくためには相互理解が必然だと思われま

す。本年のパネルディスカッションは、日本へ帰化した人をパネリストに迎えて開催する予定です。第1回の打ち合わせで、場所（えーるピア久留米、視聴覚ホール）、日時（平成29年11月19日（日）、14:00～17:00）は決定しましたが、役割分担、広報等の詳細は次回の打ち合わせで決めようと思っています。ご協力お願い致します。 **（大内田 治男）**

●「勉強になりました。久保田園芸見学会」



水耕栽培のハウス棟で、植え付けたばかりのハーブ野菜・サンチュを前に記念写真に納まる参加者のみなさん。（5月11日、北野町の久保田園芸で）

先端的なハウス園芸施設の見学会を5月11日（木）行いました。ワンネット理事である久保田寿さんのご好意で実現できたもので、参加者は13人。水耕栽培のハウスを見学し、事務所で久保田さんから説明を受けましたが、“目から鱗”の有意義な2時間でした。

見学先の（有）久保田園芸は北野町にあり、県内にある優良農業生産法人の代表格です。

約 2 ヘクタールの農地にバジル、ミント、ローズマリー、ルッコラなどのハーブ野菜、水菜などをハウス栽培しています。ビニールハウス 40 棟あり、自然農法の土耕栽培が中心。筑後川の豊富な水、肥沃な土壌の自然環境と台風や霜、雪、害虫、鳥から野菜を守るハウス栽培のメリットを最大限活用。おいしい、良質な野菜を周年生産し、安定供給を心がけています。また、早くから先鋭的に水耕栽培にも取り組み、焼き肉を包むサンチュを主に、より安全性の高い優れた品質を追求しています。大分県九重町にも農場を持ち、高冷地の特徴を生かした農業を展開。北野の農場を補う形で全体の出荷量の 3 分の 1 を賄っています。

取引先は、九州各地をはじめ東京、横浜、名古屋、大阪、北海道など全国展開。ほとんどがオーダーに応じて出荷する相対取引。平均出荷量は、おおむね 1 日 7000 パック。きめ細かな出荷調整ができる生産体制にいつも気を揉むということです。

現在は 34 人を雇用。栽培管理や施設管理に従事する農業技術者と、収穫から選別、パック詰めなどを担当するパートの地元のご婦人方。4 人のフィリピン人の技能実習生も働いています。

この日はまず、水耕栽培施設を見学しました。

硬質フィルム張りのハウス。土を使わずに、肥料を水に溶かした培養液によって野菜を栽培しています。長所は、土壌病害や連作障害を回避し、施肥・除草などの作業が省略できる。収穫までの期間が短く、規格、品質などの良さが特徴です。培養液は地下にある水槽からの循環式で、培養液の養分組成に細心の注意を払っています。栽培ベッドにはイタリア野菜のサンチュが植え付けられていました。水耕栽培のハウスは合計 1500 平方メートル。若手 4 人のメンバーで取り組んでいます。

そのあと事務所で話を聞きましたが、久保田さんからは「多くのみなさんのおかげで、今があります」の感謝の連発。全国の市場の信用を得ているのも一緒に働くみなさんのおかげ。これからも頑張りますと話しています。北野町が有数の野菜産地といわれていますが、そこまでしたのは、実は久保田さんのご両親だった由。「進取の気質に栄光あれ」。久保田さん、ありがとうございました。

(栗林 武敏)

●平成 29 年 5 月の無料相談会

5 月 10 日 (水) 10 時 30 分から 15 時まで「暮らしの無料相談会」、成年後見センター「見まもり処」を、その後引き続いて 1 時間ほど反省会を市民活動サポートセンター「みんくる」の会議室で行いました。

相談員として、久留米公証役場の村上公証人と 19 人のワンネット会員 (久保田、橋口、中村妙、松枝、藤島、大内田、鹿子生、立山、永田、森、栗林、平野、平木、古賀信、佐藤、坂井、田中、執行、古賀隆) のみなさんでした。

相談に訪れた人は 23 人で、相談件数は 18 件。相談内容は遺言・相続 7 件、離婚 2 件、年金 1 件、その他 8 件 (判決の不履行、土地の名義変更、土地の使用損害、調停に臨んで、固

定資産税について、保証人、不動産経営、近隣問題）でした。その内で継続しての相談は 3 件でした。次回の相談会は 6 月 14 日（水）で受け付け担当は平野会員と立山会員です。

5 月の公証業務相談は 5 月 24 日（水）で田村公証人と藤島会員の担当です。報告は次回のワンネット通信になります。6 月の公証業務相談 6 月 21 日（水）、村上公証人と平野会員の担当となっていますので、よろしくお願いいたします。

ワンネット勉強会

「久留米のこれからを考えよう」

日 時	7 月 1 日（土）14 時～16 時
会 場	久留米市市民活動サポートセンターみんくる
講 師	福岡県議会議員 中村 誠治氏
テーマ	中国・江蘇省との経済交流と久留米の潜在能力
対 象	40 人は参加可能です。このテーマに関心を持つ方にも参加を呼びかけましょう。

「ワンネット通信」をお送りしているみなさまへ

平成 25 年 12 月、月刊「ワンネット通信」を発行して 3 年半が経ちます。会員相互のコミュニケーションを少しでも良くしようと始めた内部報ですが、ワンネットと関係を持っていたいただいている外部の法人、個人の方々にもお送りしています。この機会にご紹介し、お礼を申し上げます。

また、「うちにも送ってよ」という嬉しいお声がありましたら、喜んでお送りし、ご笑納いただければ幸いです。送付方法は、E メールか FAX で行っています。ご希望をお教えてください。

（敬称略）

久留米市協働推進部広聴・相談課、久留米市社会福祉協議会、久留米公証役場、久留米観光コンベンション国際交流協会、久留米市農政部、久留米市市民活動サポートセンター、岩坂浩子、脇田秀喜、田中研実、鬼木啓三、山下昌邦

次回「ワンネット通信」は 6 月 25 日（日）の発行を予定しています。
みなさまからのお気軽なご寄稿、ご意見・ご感想をお待ちしております。